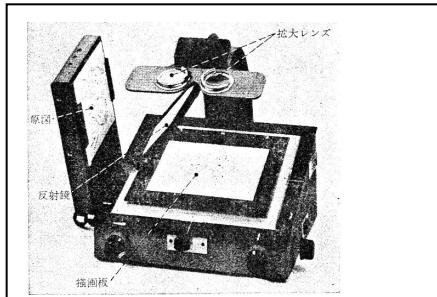


### III 抑制除去・同時視訓練 IV 融像訓練 - 家庭訓練

#### (33) カイロスコープ: Cheiroskop

参考) 眼科 MOOK31P157, 視能矯正-理論と実際-P213 他



三島済一: 眼科 MOOK31 視能矯正 P157

湖崎克: 視能矯正-理論と実際-P213



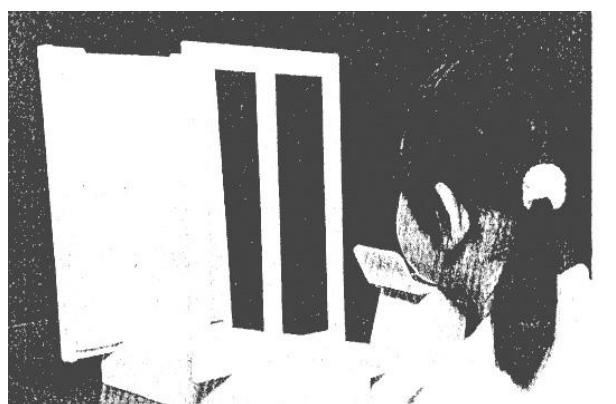
目的: 眼→大脳皮質→手への連合による両眼視機能の訓練に用いる。

構造: 接眼部には凸レンズを入れ、1眼では反射鏡により原図が見られ、他眼では描画板が見られるように作られている。反射鏡の傾斜は左右に変えられる。本器は原画板、描画板ともに内部より照明されるようになっているものもあり、描画板は水平微動が可能である。

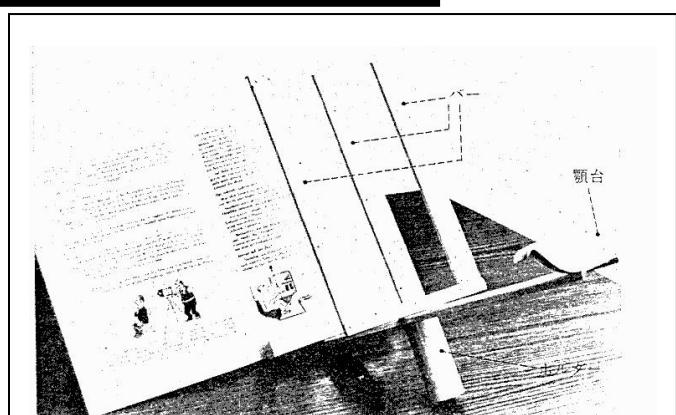
使用法: 患眼は反射板側の原図を見、それを固眼視で描眼板上にたどらせる。もう1つの方法は、検者が棒の先についた蝶を持ち、患者に捕虫網を持たせ描画板上で捕獲させたり、同質図形を融像させて両眼視機能の練習をさせる。

#### (34) 棒読書練習器(バーリーダー)

参考) 視能矯正学改訂第2版 P331, 視能矯正-理論と実際-P214



山本裕子: 視能矯正学改訂第2版 P331



湖崎克: 視能矯正-理論と実際-P214

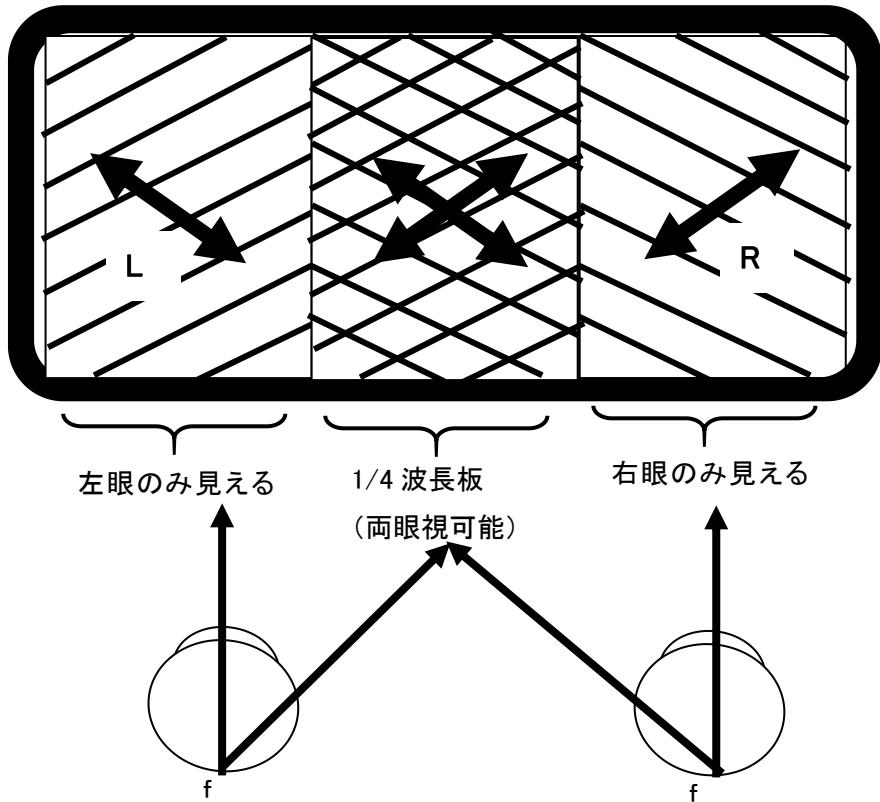
目的: 比較的日常に近い状態の、近見時の両眼視機能の検査と訓練。

構造: 横書きの文章と、眼との間(30cm)にたてられた3本のバー(1/2インチ以下)からなっている。

使用法: 患者の頭部を後から固定し、横書きの文章を読ませる。正しく両眼視していれば、文章を完全に読むことができるが、両眼視できないときは棒でかくれて読めない字が出てくる。ときに交代視してあたかも両眼視しているように読んでしまうので注意しなければならない。ただしこの場合でも眼の動きをみていればそれを見わけることができる。ひらがなで横書きの順に文字の大きさが小さくなるようなカードを組んであるものもある。また、就学前の文字の読みぬ患者のために、○△□×の図形を横に並べて作ると便利である。

類似品: ヘッドバンドに1本の棒をとりつけたものがある。

### (35) テレビジョンマスク



**適応:** 中心固視、比較的視力の良い弱視

**目的:** 両眼視機能の誘発、融像増強訓練。

弱視眼の視力増強訓練。

両眼視が不良であることの自覚を促す。

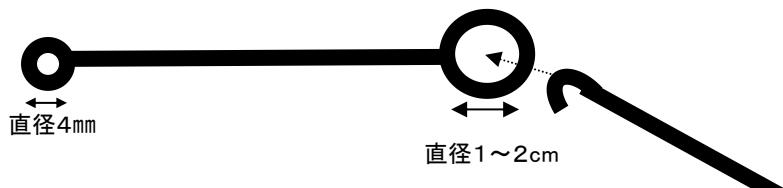
**長所:** 子どもが嫌がることなく訓練が出来る。

**使用法:** 家庭のテレビに偏光板をかぶせ、両眼視しないと全体の画面が見えないようにして、テレビを見せる。

### (36) 輪とおし

参考) 斜視・弱視の診断検査法第2版 P107 他

フローチャートあり・立体視・深径覚の検査(F)参照



**目的:** 実用的両眼立体視の有無をみる定性検査。

両眼視の獲得・強化・術後の輻辏訓練。

**長所:** 視力不良でも、おおまかな実用的立体視が測れる。手と眼の連合で融像が引き起こし易い。

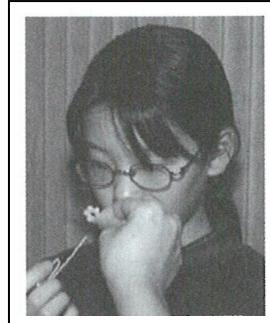
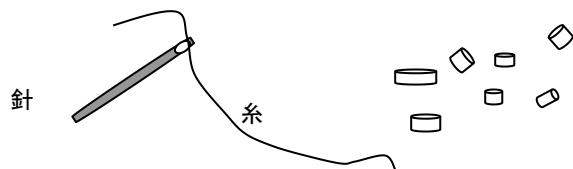
低年齢でも可能。自然な状態で検査ができる。

**使用法:** 針金の先に直径 1cm~2cm くらいの輪を作つておき、検者が、被検者の眼前にもつてゆく。被検者は、棒を輪の中へいれる。小児によつては、片眼でも、両眼と同じようにできることもあるから、片眼ではできないが、両眼で、はじめてできることに意味をもたせる。

### (37)ビーズとおし

参考)視能学 P403, 視能矯正マニュアル P180, 日本視能訓練士協会誌第 37 卷 P72

色々な穴の大きさのビーズを使用するが、厚さは平たいものが良い。



目的: 大まかな両眼視機能や立体視の訓練。

松本富美子:日本視能訓練士協会誌第 37 卷 P72

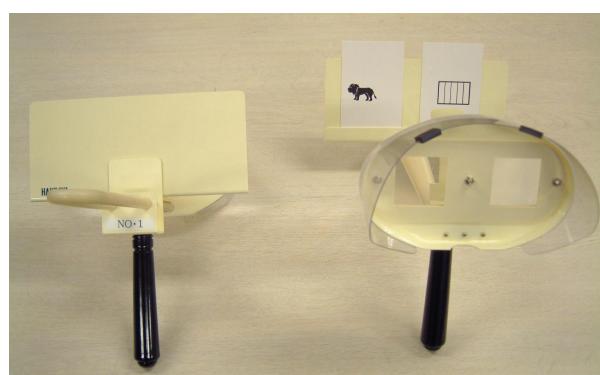
輻湊訓練。

使用法: 糸のついた針に、ビーズを通してゆく。できれば徐々に小さな穴にかえてゆく。

輻湊訓練の時は、遠方より眼前に視能訓練士か保護者がビーズ玉を近づけ複視又はぼけを感じる手前で止め、ビーズの穴を顔の正面に置く。この訓練には 2 通りあり、眼前の方向からビーズ玉を通す輻湊訓練と、向こう側から眼前に向かって通す輻湊訓練とがある。

### (38)実体鏡

#### 最新式実体鏡



目的: 輻湊と開散の訓練。日常の両眼視の訓練。

構造: 写真のものの場合

左右眼をそれぞれ分離した窓があり、同時視用・融像用・立体視用スライドが前方に立てられる前後に動く絵画台がある。

短所: 大きい斜視角と上下偏位には使用が出来ない。

使用法: 普通3~4枚の図を1日1~2回、15分ずつ訓練をする。スライドがはっきり視認出来る位置に絵画台を止める。それぞれ目的に応じてスライドを変えて行う。